
O-124 一般市民・医療従事者・胸部外科医を対象とした組織移植に関するアンケートの実施

国立循環器病研究センター 移植部¹、東京大学医学部附属病院²、東邦大学医療センター佐倉病院³
○小川 真由子¹、藤田 知之¹、福嶋 教偉¹、中谷 武嗣¹、北村 惣一郎¹、服部 理²、
三瓶 祐次²、益澤 明広²、田村 純人²、本村 昇³

日本における組織移植（心臓弁・血管（以下ホモグラフト）、皮膚、骨・靭帯、臍島、羊膜等）は、日本組織移植学会ガイドラインに則って、東西日本組織移植ネットワーク体制のもと（公社）日本臓器移植ネットワーク及び都道府県臓器移植コーディネーター（以下 Co.）と連携して実施されている。しかし人的及び経費の面から全組織について全国対応を行う事は困難であり地域偏差が生じている。これらの状況を打破するきっかけとすべく、ホモグラフトバンク事業実施施設であり且つ西日本組織移植ネットワークの拠点施設である国立循環器病研究センターでは昨年度、東京大学医学部附属病院等と連携して一般市民、医療従事者（提供側）、胸部外科医師（ホモグラフト移植側）に対しアンケートを実施した。組織移植の認知度は、一般市民 25.1%、医療従事者 58.7%、胸部外科医師 78.7%であった。臓器・組織の提供を希望もしくは協力すると回答したのは、一般市民 25.4%、医療従事者 82.3%であった。胸部外科医師においては、「(国内バンクからの)ホモグラフトの使用経験がある」24.9%、「今後ホモグラフトを使用したい」57.4%であった。組織の提供（協力）・使用の双方に希望があるものの啓発不足というアンケート結果を踏まえ、摘出地域及び移植施設の拡大を視野に入れた摘出マニュアル冊子及びホモグラフト使用・移植希望者への説明冊子の作成の検討を開始した。